

# みんなで生き物探し

園庭や公園で子どもたちと一緒に生き物探しをしてみましょう。園庭や公園の身近な生き物の種類や生息状況を再確認したり、普段気がつかない生き物の種類を把握したりすることができます。また、グループごとに分けて園庭の概略図にイラストや写真などで生き物の情報を記録すれば、たくさんの発見があるでしょう。

## ◎準備

準備物：模造紙程度の大きな紙、ペン

## ◎あそびかた

- 1) 大きな紙に園庭や公園の概略図をかきます。（おおまかに書いてあればよい。）
- 2) 園庭で生き物を探します。
- 3) お部屋に戻り、見つけた生き物の名前、数、見つけた場所の様子をイラストなどと一緒に園庭の概略図にかきこみ、壁に貼ります。新しい生き物を発見したら図鑑などで名前を調べて、その都度かき加えていきましょう。季節ごとに作って比べるとおもしろいかもしれません。

## ◎ふりかえり

何種類の生き物が見つかりましたか。また、見つけた生き物の種類によって暮らしている場所に違いがありませんか。

## ◎発展・応用

- ・季節によって、見つかる生き物も変わってくるかもしれません。季節を変えて取り組んでみましょう。
- ・子どもたちと見つけた生き物を、「生き物情報シート」（付録P.73）にかきこんで情報を寄せてください。いただいた情報は、かわさき生き物マップ（電子地図の生き物情報投稿サイト）への掲載などに活用させていただきます。

こちらから投稿できます →

<https://kawasaki.geocloud.jp/webgis/biodiversity.html>



かわさき生き物マップを見ると、園や公園の周りにどのような生き物が暮らしているかが分かります。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性・いのち



ねらい

- ・身近な動物や植物に関心を持つ。
- ・生き物の種類や特徴、生息環境には色々あることに気づく。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

## ◎留意事項

- ・生き物は摘んだり捕まえたりせず、できるだけ自然の状態を観察しましょう。
- ・公園など、場所によっては生き物の採取や捕獲が禁止されていることがあります。必ずその場所のマナーやルールを確認しましょう。
- ・事故やケガをしないよう、また、毒やトゲなどをもつ危険な生き物にも注意しましょう。

## コラム 生態系ピラミッド

「食う—食われる」関係を積み上げた図が「生態系ピラミッド」です。生態系ピラミッドの中で、太陽のエネルギーを利用して有機物をつくる緑色植物を「生産者」と呼びます。生産者を食べるものを「第1次消費者」、第1次消費者を食べるものを「第2次消費者」、その次を「第3次消費者」と呼び、生産者から順に高次の段階へ上がっていきます。なお、ダンゴムシやミミズ等、死んだり枯れたりした動植物を食べて分解し土に戻す生き物を、「分解者」と呼びます。



# 生き物のおうちを作ろう

ドイツ語のBIO（ビオ：生きもの）とTOP（トープ：場所）の合成語で、「生き物の暮らす場所」という意味の「ビオトープ」という言葉があります。草地や森・池・川・海など、大小に関わらず生き物の暮らしを支える場所はビオトープと言います。また、人が作った池や草地・森でも、生き物の暮らしを支える場所であれば、ビオトープです。プランターや水鉢、屋上・壁面緑化など身近にできる、生き物のおうち作りをしてみませんか。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性・いのち・つながり



ねらい

- 身近な動物や植物に関心を持つ。
- 生き物の種類や特徴、生息環境には色々あることに気づく。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭

## ◎あそびの例① 落ち葉のおうち

準備物：落ち葉

落ち葉を集めて堆肥を作り、生き物の寝床を作ります。

## ◎あそびの例② 石のおうち

準備物：石（15cmくらいの大きさ）

石を30cm～40cmくらいの高さに積み、生き物の寝床を作ります。

## ◎あそびの例③ 草や水辺のおうち

準備物：大きい石・植木鉢・プランターなど

- 1) 園庭の一部を、草むしりなどをせずに自然のままにしておきます。
- 2) そこに大きい石や、植木鉢・プランターを逆さまにして置き、生き物が隠れることができる場所を作ります。
- 3) 落ち葉を捨てずに、寄せておきます。

## ◎発展・応用

- 生き物がやってきたら、みんなで生き物探し（P.45）につなげてみましょう。
- 緑のカーテン（P.38）も、生き物のおうちになります。

## ◎留意事項

- 作ったおうちに生き物がすぐにやってくるわけではなく、四季を通して時間をかけていくことで育まれる場所です。
- 生き物は摘んだり捕まえたりせず、できるだけ自然の状態を観察しましょう。
- 毒やトゲなどをもつ危険な生き物がすみついた場合は、子どもたちに危険を知らせ安全に配慮しましょう。
- 地域の生態系の保全のため、外来種を持ち込まないようにしましょう。

## コラム ビオトープが出来ると

都市部では、地域の野生の生き物が暮らす場所が減少しています。最近では、学校やまちの中に池や草地・樹木のビオトープを作ることが注目されています。ビオトープを作ることによって、かつてそこに住んでいたトンボやチョウ・鳥などの生き物を呼び戻すことができ、近隣に別のビオトープがある場合は、それぞれの間の交流も生まれ、より様々な生き物が暮らせる環境になります。また、人にとっても、ビオトープは交流・憩いの場や学習の場として活用することで環境に対する意識が高まると共に、人と地域をつなぐ接点にもなります。

# むしめがね探検隊

見えているのに見ていない。普段は、自分が求める情報だけに注意を払っているため、それ以外の身の回りにあるもの、動物についても、なかなか気がつきません。足元にも、園庭の隅っこにも、小さな動物（昆虫）が息づいています。手製の虫眼鏡を使って、少し視線をかえて身の回りの自然、動物を見てみましょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



多様性



ねらい

- 地面の上の小さな動物の存在に気づく。
- 小さな動物の生息場所に気づく。
- 身近な植物や昆虫など自然が持つ形や模様の不思議さ、楽しさを味わう。

年齢

4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

## ◎準備

草木のある広場で行ないます。

準備物：手製の虫眼鏡をつくるための厚紙

厚紙で虫眼鏡のフレーム部分を切って、

レンズ部分を切り抜くと手製の虫眼鏡のできあがり！（付録P.71）

## ◎あそびかた

- 1) 子どもたちで、手製の虫眼鏡をつくります。手製の虫眼鏡はフレームを厚紙でつくり、レンズは入れません。
- 2) 園庭に出て、地面の上を虫眼鏡でよく見るように伝えます。
- 3) 地面を見ることに慣れてきたら、花壇や木の下、幹など、見る範囲を広げるように伝えます。この時、グループに分けて、範囲を決めてもよいでしょう。
- 4) 全員が見終わったら、どんな生き物が見られたかを発表します。

## ◎ふりかえり

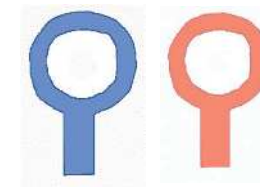
- 普段見ているときと、どう違って見えましたか？
- 普段気がつかない生き物や、面白い形、色、模様などが見られましたか？

## ◎発展・応用

- 手製の虫眼鏡と併せて、本物の虫眼鏡を使って見ると同じものが大きく見えるので、その違いを楽しむことができるでしょう。
- 手製の虫眼鏡をつくらなくても、トイレットペーパーの芯や紙を筒状にまるめたものを使っても同じように楽しめます。
- 自分の好きなように色をぬった「マイ虫眼鏡」をつくるのもよいでしょう。
- 「みんなで生き物探し（P.45）」と併せてたのしむのもよいでしょう。

## ◎留意点

- 虫眼鏡を使って身近な自然、地面の上などの小さな自然を見るあそびです。自然界では、様々な場所で毎日のように小さな変化が見られます。これを機会に、日頃から小さな自然に注意を向けてみましょう。
- 本物の虫眼鏡を使うときは、太陽を直接見ないように気をつけましょう。





# 実施例

年齢 4歳児・5歳児 人数 22人 季節 秋 場所 土手

## 実施内容

### ◆準備

紙で虫眼鏡を作る。眼鏡の部分を取り取ただけではあるが特別感を感じる。

### ◆当日の活動、子どもたちの様子

- ・手作りの虫眼鏡を持って土手に行く。
- ・草に虫眼鏡を近づけて虫を探し、見つけたら捕まえようとする。  
「虫、いなーい。」「見つからない。」という子が多かったため、あまり動かないで探すよう声をかける。
- ・虫をつかまえたら、保育者が持ってきた本物の虫眼鏡で観察する。
- ・子どもの気づき

作った虫眼鏡・・・「みえた」「おんなじ」

本物の虫眼鏡・・・「おっかい!」「バッタの目が小さい」「違う模様のバッタがいたよ」

### ◆ふりかえり

「虫眼鏡で見ると大きく見える」ということに興味を持ち、その後は虫だけでなく、植物などいろいろな物を見て楽しんだ。

初めは保育者が虫眼鏡を持って見ていたが、自分で持って見たい子が多く、交代で見て楽しむことができた。



## コラム ダンゴムシは土づくりの名人

園庭で、子どもたちの人気者はダンゴムシ。植木鉢やプランターを持ち上げると、チョロチョロと愛嬌のある姿をみせています。このダンゴムシは、自然界で重要な役割を果たしています。彼等は枯れ葉や虫の遺骸を食べ、土に戻す役割をもっています。自然界に土が存在するのは、彼等が存在しているおかげといっても過言ではないでしょう。こうした役割を担うものを生態系の中では「分解者」といい、ミミズも同じ「分解者」です。



ダンゴムシのオス(左)とメス(右)  
背中に黄色い模様があるのがメス

## 関連するあそび

みんなで生き物探し …… P.45

# 鳥のなきあわせ

川崎で鳥といえばカラスやスズメが目立ちますが、飛んでいる鳥をよく見てその鳴き声を聞いていると、カラスやスズメ以外にも色々な鳥がいることがわかります。5月には巣をつくり飛び交うツバメやギャーギャー鳴くオナガ、ハト、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリなどなど。みなさんの園庭にはどんな鳥がやってくるでしょう。

## ◎準備

- ・園庭の周りにはどのような鳥がいるか観察しましょう。また、鳴き声も聞いてみましょう。
- ・園庭の周りにいた鳥のカードをつくっておきましょう。  
準備物：鳥の絵カード（数種類の鳥の絵が描かれたカード）

## ◎あそびかた

- 1) 全員に2～3種類の鳥のカードを配る。
- 2) ルール説明  
「みなさんはいま、鳥に変身しました。お話しも鳥の鳴き声でしています。」  
「仲間がバラバラになっているので、鳥の鳴き声だけで、仲間を探してください。」
- 3) カードにかかれた鳥が、どんな鳴き声を出すか練習します。
- 4) 先生の合図で、子どもたちは鳥の鳴き真似をします。
- 5) カラスならカラス、スズメならスズメの鳴き真似だけを頼りに仲間を探します。
- 6) 全員の仲間が見つかったら、カードをかえてやってみましょう。

## ◎発展・応用

- ・夏鳥や冬鳥など季節によって見られる鳥がかわります。季節ごとに取り組むこともできます。
- ・園庭で見られる鳥を観察して、表に鳥の絵、裏に鳴き声をかいた鳥カードをつくってみましょう。

## このあそびの対象

生き物



## 環境教育の視点

多様性  
つながり



## ねらい

- ・身近な鳥の存在と種類に気づく。
- ・鳥の鳴き声の違いを注意して聞いてみる。
- ・鳴き声の意味を知る。
- ・鳴き声を真似ることを楽しむ。

## 年齢

4歳・5歳

## 季節

春・夏・秋・冬

## 場所

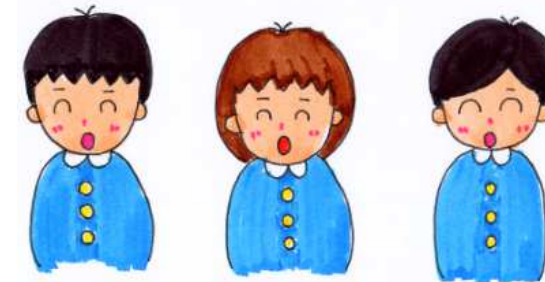
園庭

## ◎ふりかえり

- ・鳥はどのように鳴くか覚えていましたか？
- ・鳥たちにとって鳴き声にはどんな意味があるか考えてみましょう。



ヒバリ（左）とホオジロ（右）



## ◎留意点

- ・鳥は、都会でも身近な動物ですが、注意しないとなかなか気づかないものです。園庭でも注意して見てみましょう。
- ・カラスやスズメ、ニワトリなどの鳥は、鳴き声の表現が容易すぎるので、最初の練習用程度で使いましょう。

# 食べ物の循環～微生物の土作り～

私たちの食べ物の多くは、土の上で育った農作物や家畜などです。自然界では、土の上で育ったものは土に還る「循環」があります。私たちの食べ物の残りは、土に還ることが自然の摂理と言えます。土に還すためには、そのまま土に埋め込む方法もあります。また、微生物の力を借りて堆肥にすると、野菜や花を育てる土として使うことができます。園庭で生ごみを堆肥にして、自然の「循環」を体験してみましょう。

## ◎堆肥にできる生ごみ

調理で出るほとんどの生ごみは堆肥化することができます。ただし、プラスチックのような異物、貝殻など硬くて分解しにくいもの、塩分の多いぬか床や腐ったものなどの、発酵（微生物の活動）を妨げるものは除きます。

## ◎準備

生ごみは水分が多く、そのままでは堆肥化に適しません。微生物が働きやすい水分量は50～60%です。乾燥させるか水分の少ないもの（土や腐葉土）を混ぜて水分量を減らします。



## ◎あそびかた

- 1) 地面に穴を掘って生ごみと土を入れ、よく混ぜ合わせます。  
（微生物を活躍させるためには、酸素の供給が必要です。水分量が50～60%なら堆肥の中に酸素は十分に存在しますが、堆肥化の過程で時々かき混ぜると、内部が均一になるとともに酸素の供給に役立ちます。）
- 2) 上から土をかぶせます。生ごみが見えると、カラスなどの生き物が寄ってくるので、上に10cmくらいの土をかぶせることがポイントです。

このあそびの対象

環境教育の視点

生き物



つながり・有限



ねらい

- 自然界の循環のしくみに関心を持つ。
- 目に見えない微生物の存在を知る。

年齢

5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭

## ◎発展・応用

できた堆肥は、園の栽培物や、緑のカーテンを作ろう（P.38）などの栽培物に与えてみましょう。

## ◎留意事項

- 生ごみが土に還るまでは、およそ1か月かかります。（冬はもう少しかかります。）時間をかけて、土の中の微生物がゆっくり分解してくれます。
- 生ごみ処理を毎日するには、処理用の穴がいくつも必要です。
- 堆肥化の過程では水分が水蒸気になって蒸発しています。この水分を適度に飛ばすために、通気性の良いところで行いましょう。



## コラム 生ごみを濡らさないようにしていますか？

生ごみには、80～90%の水分が含まれています。この水分を除けば、ごみの重量を大きく減らすことができます。また、水分量の多い生ごみは、運搬に伴う燃料の消費やCO<sub>2</sub>の排出量増加につながることに加え、腐敗や臭いの主な原因にもなります。